

試験研究の推進方向（令和2～6年度） ～ 道総研水産研究本部 第3期中期研究計画 ～

道総研は平成22年度に道立試験場を統合し発足して以降、北海道が5年ごとに定める中期目標を達成するための研究計画に基づき様々な調査・研究を進めてまいりました。このたび水産研究本部では、令和2年度から5か年の推進方向として、本道水産業をとりまく情勢の変化に的確に対応すべく「第3期中期研究計画」を策定しました。

本道ではホタテガイ、サケ、コンブをはじめ、サンマやスルメイカ、ケガニといった主要資源で減産が進む一方、マイワシ、ニシン、ブリなど来遊量が急増している資源や、ホッケ、スケトウダラなど資源管理によって回復が進む資源もあり、周辺水域の資源状況は大きく変化しています。また、安全で高品質な本道水産物の安定供給への期待は国内外でますます高まっており、サケ・マス類や地域特産資源の養殖にチャレンジする事業者も増えてきました。

国は、資源管理や養殖を推進し水産業の成長産業化を目指す「水産政策の改革」を進めており、我が国の水産業は大きな変革の時を迎えています。道総研第3期は水産研究の現場においても激動の5年となることを見込まれます。

このような情勢をふまえ、**主要水産物の生産回復と安定化、持続的な資源利用を実現する管理技術の開発、地域水産業の振興と競争力の強化**を主眼として、8つの研究推進項目を設定しました（右図）。道総研は各産業分野で培った科学技術力を結集し、浜とともに、行政、大学、関連企業と連携して本道水産業の振興に力強く貢献してまいります。

①水産資源を持続的に利用するための資源管理技術の開発
漁獲物や漁獲統計の分析、試験調査船による資源・海洋環境のモニタリングを進め資源状況を的確に把握するとともに、資源管理や漁況予測の技術開発に取り組みます。

②水産物を安定供給するための増養殖技術の開発
本道の重要資源であるホタテガイ、サケ・マス類、コンブ類の生産技術の高度化と養殖技術の開発、魚病発生状況のモニタリングと防疫技術の開発に取り組みます。

③地域水産業の振興のための技術開発
ニシン、マツカワ、マナマコなど栽培漁業対象資源の生産技術開発、チョウザメ、二枚貝、ウニ、海藻類など地域特産種の養殖技術の開発に取り組みます。

④ICTを活用した次世代漁業技術の開発
ICT技術を積極的に導入し、水温や漁況など漁業現場の情報をリアルタイムに集積する効率的な漁業システム、遠隔制御・監視システムによる増養殖管理技術の開発など、水産業のスマート化に取り組みます。

》》》 地域を支える漁業の振興につなげます！

⑤水産物の品質・加工適性などの評価と利活用技術の開発
漁獲時期やサイズによる栄養・健康機能性や美味しさを評価し、原料特性を活かした品質向上技術の開発、さまざまな加工方法を適用し水産物の高度利用技術の開発に取り組みます。

⑥水産物と加工食品の安全性確保と品質・鮮度保持技術の開発
水産物中の病原微生物や寄生虫、ヒスタミン、アレルギーの検出・抑制技術、生産から消費までの鮮度保持や品質管理技術の開発に取り組みます。

⑦未利用水産資源を活用した研究開発
ウロやウニ殻、ヒトデや雑海藻などから、健康医薬品や工業原料としての有用成分を分離・精製する技術、天然調味料素材や飼料化技術の開発に取り組みます。

》》》 資源の有効活用と高度利用を推進します！

⑧水域環境保全と海域高度利用技術の開発
生態系・生物多様性の保全に関する技術、漁場環境の変動予測技術、増養殖水面の造成技術の開発に取り組みます。日本海を中心とした磯焼け対策の技術開発、海獣類による漁業被害の実態把握と影響評価、被害軽減に関する技術開発に取り組みます。

》》》 自然と調和・共生した水産振興を進めます！

図 第3期中期研究計画における研究推進項目

（星野 昇 水産研究本部企画調整部）